

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 広徳 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

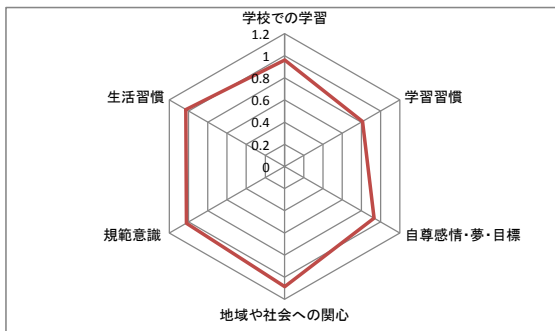
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	言語知識理解は少しずつ定着してきている。相手に分かりやすく伝わるような文章を書く問いや文章の流れから、適切な語句を判断する問いについては、課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	古典に関する問いをはじめ、国語の特質や言語文化への理解度は高く、ほとんどの課題は全国平均を上回っている。特に歴史的仮名遣いを現代仮名遣いにする問いは全国平均より20ポイント上回る結果だった。	
	努力が必要な問題	目的に応じて、文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く問題の正答率が低い。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	適切なものを選択する課題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	相手に的確に伝わるように、内容をまとめて書くことには課題がある。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	基本的な計算の問題や図形の活用については、正答率が高い。図形を活用した問いや関数については課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	資料の活用の問題や基本的な計算問題については、全体的にも正答率が高く、定着していると考えられる。	
	努力が必要な問題	不等式の不等号の知識や三角形の内角の和を求める問題については正答率が全国平均よりも10ポイント近く下回っている。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	無回答率は全体を通して低い傾向である。短答式の問題については正答率が高い。事象を数学的に解釈することはできているがそれを説明することは十分とは言えない。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	関数を活用して、どのような事象が示されているかを説明する問いについては正答率が高い。	
	努力が必要な問題	数学の見方、考え方に関する問いの正答率が低く、特に記述式の問題についての正答率が低い傾向がある。	
理科	全体的な傾向や特徴など	理科に関する知識を問う問題は正答率が高いが、その知識を活用し事象の説明することについては課題がある。1分野2分野ともに全国平均と比較して1・2ポイント下回っている。特に自然現象に関する関心意欲は高い傾向を示している。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	自然事象への関心意欲、知識理解を問う問いについては正答率が高い。特に、植物の蒸散についての説明を読み取る問い、身近な道具から電流と電圧の関係を説明したり、地震に関する基礎的な知識を問う問いの正答率が電気用図記号を説明する問いとオームの法則を活用して抵抗を求める問いの正答率が低かった。	
	努力が必要な問題		

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
夢や目標を持っているかという質問に対しては昨年度の3年生と比較して20パーセント低くなっている。しかし、本年度3年生が2年生で調査したときと比較すると10%上昇している。
自分にはよいところがあると思いますかという質問には、昨年度の3年生、昨年度に調査した本年度の3年生の結果と比較して、いずれも肯定的な回答をする生徒の割合が高くなっている。
学校長が掲げる教育目標に向けて職員がベクトルを揃えた、心を育てる指導を継続して行ったことや、本年度道徳の授業や学活などを通じて、自己肯定感や自尊感情が高まるような取組を学校全体で行っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

基礎的・基本的な内容の定着については放課後や休み時間などでの質問や補充学習を今後も継続し、特に数学の計算力とスキルを生かした活用の力を身に付けていくことができるようにする。
そのために、学力向上推進教員の参観・指導を理科・数学を中心に今後も実施する。またその助言内容を全職員に見える化し、取組の様子を周知するように努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

生活習慣の面に関しては今後も継続して規則正しい生活ができるよう規範意識の醸成とともに進んでいく。
自己肯定感や将来への夢を持つことについては経年では上昇傾向であるがまだ、全国的には低い傾向であるため、今後も職員が丸となって温かい声掛け、温かいまなざしで地域とともに9か年で育成するという視点を持って指導に当たっていく。